福岡県　グループホーム木蓮の家　　令和元年7月30日

令和　　元　　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075500472		
法人名	有限会社木蓮		
事業所名	グループホーム木蓮の家		
所在地	福岡県宮若市長井鶴263-7		
自己評価作成日	令和元年7月20日	評価結果確定日	令和元年7月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和元年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

平成16年にグループホームを開設して16年目に入る。 平成20年5月より共用型認知症通所介護を開設して11年目を迎える 通所から入所へと利用者の不安を配慮したサービスを提供している。身体状況が重度化になられても、安心して過ごしていただくように、ほとんどの職員は認知症の実践者研修を受講している。リーダ研修や認知症指導者研修も受講する等して認知症の人の研修の参加体制を整えている。併設ではないが近隣に24時間体制の医療機関があるので、入居者は安心して日々すごしていただいている。月に一度月参りに地域の住職が参られる 平成28年7月より宮若市運営事業としてオレンジカフェ木蓮の家として委託契約している。平成28年度11月より眠りスキャンを使用開始して、利用者さんの安眠と安全に努めている。
宮若市地域包括支援センター委託により介護支援ボランティアを2名受け入れ、いっしょに楽しく活動していただいている。毎月第2日曜日には、福岡県若年性コーディネーターの方・福岡県家族の会の方と一緒に料理をつくる活動に参加しながら、若年性認知症の方について学んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関や事務室に開所以来の理念を掲示し、日々理念の実践に取り組んでいる。職員の子どもの歓声が響き、入居者と同じソファで寛ぐ介護支援ボランティアや、生き生きと入居者のお世話をしたり洗濯物干しやテーブルを拭く共用型デイサービスの利用者もあるなど、居心地良いホームとなっている。月1回のミーティングや担当者会議で、突然に失神するほどの心疾患がある入居者や実妹の要望を話し合い、帰宅時の緊急時の対応を念頭に入れながら月1回の外泊を支援している。また、最期はホームでとの家族の意向を全職員で受け入れ退院した入居者に「お帰りなさい」と声をかけ、少量のプリンやドリンクが飲み込めたことを喜び合うなど、温もりのあるケアが展開している。子育てや資格取得の支援、研修参加の推奨、眠りセンサーの活用など働きやすい職場を作り、管理者は地域内外の活動に参加をすることでさらに視野を広め、運営推進会議や家族会の開催で、地域や家族、保険者の理解や協力を得ながら、地域包括ケアに邁進しているホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**グループホーム木蓮の家**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会に唱和しスタッフ全員で理念の意味を理解し実践につなげている。ホームならではの理念を大切にしケアの向上を目標に日々つなげている。ホーム全体で共有し、実践に繋げているいる。ミーティング、勉強会等で唱和している。	玄関や事務室に開所以来の理念を掲示し、日々実践に努めている。職員の子どもの歓声が響き、入居者と同じソファで寛ぐ介護支援ボランティアや、生き生きと入居者のお世話をしたり洗濯物干しやテーブルを拭く共用型デイサービスの利用者等、居心地良いホームとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設当初から、地域商工会や青年団による神輿行事などで、ホームでの炊き出しなどし、地域との交流に積極的に参加している。宮若市地域包括委託になり、認知症カフェを開催、フットケア等で地域の一員とし交流活動している。	今年も地域祭りの神輿が巡行し、琴や三味線等のボランティアの来所も多く、家族から野菜やおやつの差し入れも多い。月2回の認知症カフェは好評で、2名の介護支援ボランティアに活動できる場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症キャラバンメイトでサポータ養成を行っている。認知症カフェを月に2回開催し地域の方の認知症への理解と相談に乗るなど支援にもつなげている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヵ月に1回、利用者の状況報告や日常生活を報告している。そこでの意見はスタッフ間で共有しサービス向上に活かしている	昨日の運営推進会議は家族の参加もあり、他施設の講師による身体拘束の研修会を開催している。会議録は玄関に公表し、全家族にホーム便りで会議の開催や内容を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の空き状況の確認や会議や勉強会の参加、認知症カフェなどによりホームの実情や取組を積極的に伝えるとともに連絡連携を取るようにしている。	市の委託で開催している認知症カフェは、他のグループホームからの参加もあり、フットケアで心もケアされたと好評で、随時報告している。又、看護師の資格のある職員が医療連携業務と介護職業務を兼任することについて、担当者からアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部から講師を招き運営推進会議でスタッフ全員に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。運営推進会議後、身体拘束委員会を開催し、スタッフ全員で身体拘束について常に意識するとともに、身体拘束の無いケアを取り組んでいる	運営推進委員に身体拘束適正化委員の兼任をお願いし、昨日の委員会は外部講師が身体拘束に関する講話をしている。参加した職員にも好評で、「人も環境」との理解が深まったと管理者は話している。布団ごと床に転落した入居者の家族から厳重な拘束の依頼を受けたこともあるが、拘束の弊害について説明し、センサーを活用している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に参加し学ぶことにより虐待防止の徹底に努めている。また、スタッフ間の気づきも大切にしている。		
8	（6）	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修会や勉強会に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶことにより、いつでも支援に活用できるようにしている。またパンフレットなどで家族にも説明している。	参加している地域同業者協議会のGHみやわか主催の日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修会に参加し、職員にも周知している。家族が後見人の入居者もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書で、事業所で出来ること出来ないことを明確に説明している　改定後は充分な説明を行い、同意書をいただき理解、納得をしていただいている専門用語を使わない等分かりやすい説明をする等心がけている		
10	（7）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族には、訪問時に意見や要望などをいつでも出しやすいように雰囲気づくりをするとともに、出された意見は、ミーテイングで話し合い、運営に反映させている。	家族の来所時や毎月のホーム便りで心身の状況や暮らしぶりを報告し、年1回家族会で家族が話し合う場を設け、意見の表出を促している。昨年の家族会は寿司職人がその場で握った寿司や三味線の演奏を入居者と楽しみ、家族が入居者の状況を理解する場にもなっている。1年間の暮らしをDVDに収録し、希望する家族に配布している。	
11	（8）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は運営に関する職員の意見や提案をミーテイングや個人面談で、短時間職員、常勤職員も意見や提案聞く機会を設け反映させている　短時間職員も研修に参加して職員全体で意見、提案をしている	月1回のミーティングは運営者である管理者も参加し、率直な意見交換が行われている。入居者の現状に即した食事や就寝時間などを話し合ったり、職員の提案でエアマットをレンタルしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の整備をしている　開設から社会保険労務士と契約して職場環境整備に努めている職員が受講したい研修は積極的に参加してもらい向上心に努めている		
13	（9）	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者及び管理者は短時間職員もチームの一員として研修会、会議に参加をしている。職員の質の確保、向上にむけた育成ができるように年間計画の中で研修を位置づけている働きながら、子育てしながらでも働けるように支援している	職員の紹介や口コミの入職が多く、30代から70代の職員が勤務している。十数年勤務している職員は、入職後介護福祉士の資格を取り、認知症実践者研修などにも参加し、グループホームの理解を深め、職員にも恵まれて長く仕事が続けられていると笑顔で話している。眠りセンサーをいち早く導入し、現在は夜勤でのバイタル把握が容易になる等、働きやすい職場づくりで、運営者である管理者も地域内外の活動に関わり、生き生きと社会参加をしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、人権教育、啓発活動として協議会や家族の会の研修会参加で人権教育、啓発活動に取り組んでいる　管理者、職員は時々寺の住職から人権学習として研修を受けている	福岡県高齢者グループホーム協議会や認知症の人と家族の会に加入し、人権研修に参加している。又、参加している地域同業者のGHみやわか主催の人権に関する研修会では、講師を各ホームの管理者が順次務め、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者と兼務して、ホーム内全体を把握し、勤務体制を考え職員が働きながら研修に参加できるように配慮をしている 研修費用や参加費を法人負担して、勤務時間で研修参加できる機会を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と協議会をつくり月1回の勉強会、や交流会などで情報交換をしている　福岡県グループホーム協議会に加入、また地域のドクターが開催する勉強会を年2回参加をしてサービスの質を向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者開始時は特に不安に思われる事が多いため、常に寄り添い耳を傾けることを大切にしている。安心して過ごせる環境作りに配慮している。本人様が困っていることや何を希望されているかを聞き取るようにし支援に繋げている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の方の思いや状況などを確認し、家族の方が何を希望されているか良く聞き、困っていることや不安などに対して出来ることは、すぐ実行、対策を考えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にはケア会議を開催しスタッフ間にて本人の情報及び問題点について共有し必要なケアを見極め支援につなげている。他のサービスが必要であれば、その都度速やかにサービス利用へと繋げている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、料理の盛り付けや食後の食器洗い等、今までの生活でされていた事をスタッフの声かけや見守りなどにより続けられるよう支援している。本人様のできることを大切にし継続できるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を把握した上で、家族の方と一緒に安心して過ごせる場所や環境を整えるよう配慮している。家族間の絆を大切にし、その上でともに本人を中心とした支援に繋げて行くようにしている。家族が気を使わないように気を配りながら、面会に来られた時などに相談できる雰囲気作りに務めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人が面会に来やすいような雰囲気つくりをしている。また本人が大切にしている場所へは、スタッフが付き添い送迎介助を行い、訪れる等し、本人の思いを大切にしている。ホームで一緒に食事をしていただくなどして、家庭のような雰囲気づくりに努めている。	家族や職員が同行して法事などに出かける入居者もいる。入居者の「家族にお茶を出してほしい」との気持ちを汲み取り、来所時にはコーヒーやお茶を出したり、来訪された高齢の実妹を自宅まで送るなど、家族との関係継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の性格や関係について職員が十分に把握し穏やかに過ごせるようにソファーやテーブル、椅子などの位置にも気を配っている。コミュニケーションがとりにくい方には職員が間に入る等配慮をおこなっている。体操やレクの声かけ、話題の提供など交流が盛んになるように気を配っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても利用者や家族の方がいつでもホームに尋ねてこられる環境を作るとともに、退所されても家族の相談にのり必要に応じてフォローをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人のその時の思いを聞くようにし、どのように過ごしたいか把握するように努めている。言葉だけではなく表情や動作にも気を付け読み取るよう気を配っている。また家族とも話をすることで本人の希望を把握できるよう努めている。	要介護度4や5の入居者が多く、日々の関わりを通じて思いや意向を把握している。独居になった実妹宅に月1回外泊し、好物のなまこを食べたりお酒をたしなんだり、実妹と買い物に出かける入居者や、ピアノを弾く入居者もある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族の方へこれまでの暮らしについて聞き取り、把握に努めている。また以前のサービス利用状況についても情報の収集に努め、アセスメント表を記載している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定や排泄表、一人ひとりの介護日誌を記録し、変化や異変にすぐ気づくようにしている。また、本人への気づきについては申し送りなど行いスタッフにて把握に努めている。いろんな作業を一緒に行うことで、保有する力などの現状の把握を行っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヵ月または、必要時にモニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。計画作成者や他の職員との評価を行い、現状に即した介護計画を作成するとともに、その都度家族の同意を得て確認印をもらっている。	担当者会議に出席する家族もあり、職員の気付きやモニタリング結果に沿った介護計画の作成や見直しをしている。突然に失神するほどの心疾患がある入居者や実妹の要望に沿って、帰宅時の緊急時の対応を念頭に入れながら月1回の外泊を支援している。	個々の状況に応じて実践されているケアや確認した本人や家族の意向、説明したリスクを介護計画に明記し、理念に掲げた温もりのあるケアや心地良い暮らしの支援を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルおよび健康チェック、介護日誌を記録している。朝、夕申し送りをすることにより職員で情報を共有している。情報を得たことは介護計画の見直しに繋げ、見直しに活かしている。個人の月間日誌を記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の状況を把握し必要なケアに気を配っている。必要に応じ他の機関や行政などに問い合わせるなどサービスの多様化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や他の事業者との交流で地域資源を把握し本人が心身の力を発揮し、楽しく暮らしていけるよう、本人に必要なサービスを利用できるように支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医や希望する医療機関があれば契約時に家族と本人と話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。受診時に職員が同行できない時は、ご家族にメモを渡す等情報を医療機関に報告している。	昨日退院した方は、往診したかかりつけ医療機関の医師から点滴を受けている。随時状況を報告し、かかりつけ医療機関から月2回往診を受けているが、近隣なため介護と医療の連携が容易となっている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携での看護師による往診で日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを相談し適切な受診や体調の悪化防止や病気の早期発見につなげている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関あてに情報提供書を作成し利用者の心身の状態やホームでの生活状況などを報告している。入院中も状況を尋ねる等行うとともに、退院時には医療機関より介護サマリーや看護サマリーを提供してもらい医療経過を把握している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い入退院を繰り返す場合は、今後の対策を医療機関と本人家族と話し合っている。本人の状況が変わるときは、家族とその都度話し合いながら、医療機関と連携し、支援に取り組んでいる。	液状にした食事をスポイドで口に入れたり、ミキサー食を介助するなど、経口摂取に配慮を要する方が複数おられ、家族の気持ちを受け入れながら、今後の対応を検討する予定である。昨日、最期はホームでとの家族の意向を全職員で受け入れ、退院した入居者に「お帰りなさい」と声をかけ、少量のプリンやドリンクが飲み込めたことを喜び合っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内で消防隊の指導の下救命講習を受けている。ホーム内で急変や事故発生時に備えてマニュアルがあり、いつでも対応できるようにしている。介護ロボット（眠りスキャン）を設置している。		
37	（16）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一回火災訓練をホーム内や消防署の指導の下で行っている。隣家や民生委員の方に協力をお願いしている。他のグループホームと連携をとりあいながら協力体制を築いている。	前回は市指定の高台にある公民館に、4～5名づつを1時間かけて移送する避難訓練をしている。災害時は市内同業者と連絡を取り合い、加入している福岡県高齢者グループホーム協議会は被害状況を問い合わせ、全国区で助け合いを展開している。備蓄台帳を整備し、服薬などの重要な情報はUSBメモリーで持ち出す予定である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	（17）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護の取り決めをしている。一人ひとり言葉かけについても、敬語を基本として本人の分かりやすい言葉かけになるよう気を配っている。ミーティング・勉強会等で、常々再確認するように心がけているいる。	耳の聞こえが悪くなった入居者には耳元で大きな声で聞き取りをするなど、状況に応じた声かけや対応が行われている。調査日も職員の穏やかな声かけで、食後の口腔ケアや排泄介助が行われていた。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表しやすいような環境づくりをし、職員は常に傾聴の立場をとっている。言葉だけでなく、しぐさや表情などにも気を配っている。また、本人が自己決定できる場を作ったり、自己決定へとつながる言葉かけをしたり配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや体調に合わせたゆつたりとした支援をしている。体操やレクは声かけを行うが本人の意思を優先し、希望にそった過ごし方を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には自分の好みの服を選んで頂いている。本人の希望により髪を染めたりしておしゃれを楽しまれている。入浴後や洗面には化粧水をつけられるなど身だしなみの支援をしている。		
42	（18）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら季節感のある献立を職員が考え、皮むき・配膳等、利用者ができることは一緒に行うようにしている。嫌いなものは、別メニューに変更し、体調の悪い日も献立を考慮している。食事の片づけも食器洗い、台ふき等、利用者と一緒に行っている。	テーブルを2つにわけ、職員の見守りや声かけ、介助で其々のペースによる食事を支援している。1時間かけて食事をされる入居者には疲労に配慮し最後は介助しているが、自分で食べることを大切に支援している。手作りの行事食や焼き肉を楽しみ、外食に出かけ、前回の家族会でのお寿司バイキングは好評で、「トロばっかり食べて」と家族が謝辞する場面もあった。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録している。嚥下状態の悪い利用者は水分にトロミをつけたり食材の切り方を工夫している。水分食事摂取困難時には医療機関と相談し、状態に合わせた食事形態にするなど対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。一人ひとりの口腔状態に合わせ、声かけ見守り、介助やハミングットを使用するなど支援を行っている。訪問歯科や行きつけの歯医者に行かれるなどして口腔内の清潔の保持に努めている。		
45	（19）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、トイレの排泄支援を行っている。トイレでの排泄が継続できるよう職員で話し合い、声かけの工夫、介助方法で身体機能低下防止に努め、安全で気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄が自立している入居者もあるが、個々の入居者の排泄パターンで時間毎の誘導や介助をしている。車イスでの対応が容易なトイレが3ヶ所設置され、トイレでの排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫、便秘予防に努めている。ホームでできる適度な運動や腹部マッサージなど便秘の予防をしている。医療機関や看護師との連携で排便の調整をしている。		
47	（20）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	バイタル確認の上体調に配慮し、入浴の声かけを行っている。声かけのタイミングはなるべくその方に合わせている。	浴室は明るく大きめの浴槽が設置され、共用型デイサービスの利用者もあり毎日入浴できるが、2日に1回入浴する方が多い。浴槽の跨ぎが困難な入居者もあり、冬場はシャワーを出しっぱなしにするなど、室温を管理している。入浴を億劫がる入居者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の体調や状況に応じ休息がとれるように気を配っている。気持ちよく休めるように気温、明るさ、音などに配慮している。フットケアで休息の支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテを作成し、職員は薬の副作用、用法を理解している。本人に何の薬かを伝えながら服薬していただいている。服用後の症状の変化にも注意を払い体調不良時には医療機関へ報告し連携を図っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算ドリルやピアノ、本や新聞を読まれたりと、その方のお好きな物、興味のある物には声かけし取り組んでいただいている。ドライブや食事に出かけたりと気分転換になるよう気を配っている。居室には仏壇を置いているので、毎朝お供えをされている方もいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の身体状況に応じて、心身の活性に繋がるように日常的に散歩、買い物ドライブにでかけている。その方に合わせ、家族との外食に出かけられるように支援している。その方の体調状況に配慮し個別の対応を行っている。重度により少人数での外出を行っている。	管理者は外出の意義を理解し、「毎日が外出DAY」と話している。個別の買い物やドライブ、外食、散歩が日常となっている。6月はラーメンとから揚げを食べに出かけ、パフェの時は前もって予約して出かけるなど、食事と外出を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が管理できる金額を持っていただいて、コンビニなど外出時に本人がお金を支払い好きなものを購入される支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が電話をかけてこられたり、本人の希望がある時には電話をかける等の支援をしている。本人あてに荷物が届けば、手紙が書けるように便箋や筆記用具の準備をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居室の周りに職員が描いた絵画をたくさん飾っている。玄関横の庭は桜の花、梅の花、木蓮の花などが咲いて季節感を取り入れる工夫をしている。台所の音や料理の匂い、外の音や天気、風など生活感のある暮らしの工夫をしている。	今春も駐車場から庭の桜見をしている。居間の壁には七夕さまの歌詞と絵が大きく描かれ、廊下には願いごとを書いた七夕が飾られている。居間には円形や長方形の大きなテーブル、椅子、ソファ、ベット、ピアノ、仏壇が置かれ、入居者遠縁の住職が月参りに来訪している。空調も管理され、時にピアノを弾く入居者もあり、居間でのんびりと寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファーの位置を配慮し仲の良い方同士で過ごせるように場所を工夫している。カフェ風にコーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しまれたり、静かにお好きな音楽を聴いたり気持ちよく過ごせるように環境作りに気を配っている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みのものを使い慣れた物を置いて頂き、居心地の良い生活が出来るように工夫している。タンスや鏡台、仏壇など入所以前に使用していた物を使われている。	入居者の身体状況に合わせて電動ベットや見守りセンサーが設置された居室もある。家族の写真や職員からの誕生日の色紙が飾られたり、誕生祝いの蘭の鉢が置かれるなど、家族や職員の心配りが伺える。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋とわかる目印を置いている。ご自分で立位、座位などできる物の配置等転倒防止の為の工夫をしている。できることは本人ができるよう、洗濯物干しなど、分かりやすいように工夫している。		